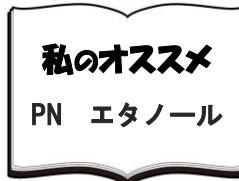


本屋大賞のノミネート10作品が発表になりました。本屋さんに行くと、ノミネート作品が並んでいると思います。この中から大賞に選ばれるのはどの作品でしょうか？ 発表は4月7日です。(ちなみに自分は『店長がバカすぎて』が気に入っています。)

## 「2020本屋大賞」ノミネート作品

「売り場からベストセラーをつくる！」という理念のもと創設されたのが「本屋大賞」です。投票権を持つのは書店員さんのみ。本屋さんの本気が見られる賞です。なお、昨年の大賞は瀬尾まいこさんの『そして、バトンは渡された』でした。



## 『灰と幻想のグリムガル 1~15 (以下続巻)』

十文字青 著  
オーバーラップ

「目覚めよ」という声を受けて目を覚ますとそこは、小さな蝋燭の灯る薄暗い洞窟の中だった。そこにいたハルヒロたち12人はなぜか、自分の名前以外思い出せない。洞窟の外に出ると空には、ルビーのように赤い月が昇っていた。途方に暮れるハルヒロたちだが、とある事務所で「義勇兵」が「魔物」と戦っていることを知らされる。「まるでゲームのような世界」「グリムガル」で、12人は義勇兵となって戦いながら生きていくことを決める。

この作品は小説以外に、アニメ、マンガでも展開しており、それぞれでキャラクターや世界観などを楽しむことができる作品になっています。興味を持った人はぜひ一度ご覧になってみてください。



	『線は、僕を描く』 砥上裕将 著/講談社	
	『夏物語』 川上未映子 著/文藝春秋	
	『ノースライト』 横山秀夫 著/新潮社	
	『むかしむかしあるところに、 死体がありました。』 青柳碧人 著/双葉社	
	『ムゲンのi』 知念実希人 著/双葉社	
	『ライオンのおやつ』 小川糸 著/ポプラ社	
	『流浪の月』 凧良ゆう 著/東京創元社	